

半兵衛流と野々市の獅子舞

金沢での獅子舞は、幕末頃より巨大な獅子を退治する「獅子殺し」の演舞が流行しました。獅子に向かう棒振りの剣術には様々な流派がありましたが、中でも金沢地黄煎村（現金沢市泉野町・泉が丘の一部）の剣術家・町田半兵衛が明治時代の中頃から広めた「半兵衛流」が、犀川以南の村々の主流となりました。

町田家にはその入門者を記録した「誓紙血判書」が伝わっており、主に明治20年（1887）代に中林や粟田、本町地区の住民の名前がみられます。これにより、現在見ることが出来る野々市の獅子舞は、この頃から繰り広げられていたと考えられます。



豊田日吉神社（粟田）には、町田半兵衛の門弟で、無拍子流・水野一伝流を習得した者たちによる扁額（明治39年・1906）が奉納されています。



大正4年（1915）の西町（本町四丁目）の獅子舞